

令和 2 年度

大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・

大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業

成果報告書（最終報告書）

順天堂大学



2021 年 3 月 29 日

## 目 次

---

<b>1. 本事業の概要</b>	2
(1) 本事業の目的	
(2) 本事業の計画内容	
<b>2. 順天堂スポーツ推進支援センターの取り組み</b>	5
(1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について	
(2) 大学スポーツ・アドミニストレーターの配置の状況について	
<b>3. 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成等</b>	8
(1) 近隣自治体コンソーシアム	
(2) 地方自治体コンソーシアム	
<b>4. パラスポーツ体験会の実施</b>	12
(1) 印西市 小学校体験会	
(2) 印西市 福祉事業所オンライン体験会	
(3) 遠野市立鱒沢小学校 パラスポーツ体験会	
(4) 酒々井町 パラスポーツ体験会	
<b>5. まちなかパラフェスの開催</b>	31
(1) 「まちなかパラフェス」の概要と目的	
(2) 岩手県遠野市「共生社会フォーラム in とおの」	
(3) 千葉県成田市 まちなかパラフェス	
<b>6. 共生社会マスター認定への取組み</b>	40
(1) 目的と実施方法	
(2) 内容	
<b>7. 本事業の総括</b>	44

# 1. 本事業の概要

---

## (1) 本事業の目的

本事業では、順天堂大学のスポーツ資源を活かして、関係自治体とのコンソーシアムを形成し、障害者スポーツ（パラスポーツ）を通して、共生社会への理解を深め、イベント等を実施し地域活性化し、まち・ひとづくりに貢献することを目的とする。

## (2) 本事業の計画内容

### ① 2つのコンソーシアム

本事業の実施主体となる順天堂大学スポーツ健康科学部は千葉県印西市にあり、同市と隣接する成田市、佐倉市、酒々井町と連携し、スポーツ・健康に関する研究成果及び人的資源等を活用して、スポーツ文化の発展、健康増進、介護予防等の多様な課題の解決に協力してきた。

また、岩手県遠野市と愛知県東郷町との間においても、前述のようなスポーツ・健康に関する連携協定の締結や、パラスポーツ体験会への協力等を実施してきた。

本事業においては、これらの関係自治体との連携を基盤として、開始時に事業推進研究会を開催し、「近隣自治体コンソーシアム」と「地方自治体コンソーシアム」を形成することとした。

大学近隣自治体、関係機関・団体との連携を構築し、日常的に定期的な取組を行うことで、今まで築いてきた協力関係をさらに強固にし、パラスポーツを市民に幅広く普及し、共生社会を推進することでまちづくりを長期的に直接支えていくものである。

### ◆ 「近隣自治体コンソーシアム」

大学近隣自治体、関係機関・団体との連携を構築し、日常的に定期的な取組を行うことで、今まで築いてきた協力関係をさらに強固にし、パラスポーツを市民に幅広く普及し、共生社会を推進することでまちづくりを長期的に直接支えていくものである。

対象自治体：千葉県成田市、印西市、佐倉市、酒々井町

### ◆ 「地方自治体コンソーシアム」

本学とは距離があり、頻繁に人的資源を直接的に届ける方法ではなく、ICT等を活用し、オンラインでの交流や様々な支援を合わせながら、自走化に向けた共生社会のまちづくりひとづくりを支えていく遠隔型連携を目指していくものである。

対象自治体：岩手県遠野市、愛知県東郷町

しかし、千葉県佐倉市、愛知県東郷町については、本事業の取組について協議をしたが、新型コロナ感染症の状況等も踏まえ、本事業における両自治体との取組は実施しないこととなった。

## ②各期の事業計画

本事業を「触れる・楽しむフェーズ」「広げる・深めるフェーズ」「創るフェーズ」の3期に分け、段階的に事業を展開し、共生社会への理解を深化、拡大していくこととした。

各期の事業計画

時期	テーマ	目的	内容・方法
第1期	触れる・ 楽しむ フェーズ	体験を通してパラスポーツへの 関心と認知度を高める	各自治体においてボッチャを中心にパラスporteの体験会を実施する
第2期	広げる・ 深める フェーズ	パラスポーツへの継続的取り組みを促進する パラスポーツへの理解を深める	継続的に取り組みたい団体に対して、用具を貸し出し、定期的に巡回し、技術支援をするとともに、チーム作りや多様なパラスポーツへの理解推進を行う。
		共生社会への理解を深める	各団体での研修会や市民講座、大学の公開講座、オープンキャンパス等を活用し、障害、共生社会、バリアフリーに関する講演を開催する。
第3期	創る フェーズ	取組の成果を広く発表するとともに、イベントを通して パラスポーツへの認知度を高める	人々が集うまちなかでのチーム対抗ボッチャ大会・競技用車いす走行体験などのイベントを実施する。
		共生社会を担う人材を育成していく	第1期～第3期への継続的な参加者に対して、「共生社会マスター」として認定する。

本事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響やその予防的措置、対応等を鑑み、各自治体と協議・検討のうえ、計画段階で実施予定であったコンソーシアム形成の対象となる自治体との連携協力、また、体験会、イベント等の実施においても、期日の変更や実施方法の変更等を余儀なくされた。

具体的には、近隣自治体コンソーシアムを形成予定であった千葉県佐倉市、地方自治体コンソーシアムを形成予定であった愛知県東郷町とは、本事業について連携協力は実施しないことが事業開始時に確認された。

また、感染拡大、収束の状況、緊急事態宣言の発出・延期等に合わせて、体験会等の実施方法、参加者の募集方法等の制限、延期等の対応が求められ、事業計画通りの実施は極めて厳しい状況であった。

以上のような状況を踏まえ、関係各機関と安全に最大限配慮をしつつ、できる限り、大学資源を活用した地域活性化という本事業の目的の達成を目指し取り組んだ各内容について、報告する。

# 順天堂大学 パラスポーツを通したまち・ひとづくり支援



## 事業概要

## 2. 順天堂スポーツ推進支援センターの取り組み

---

### (1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について

#### 【順天堂スポーツ推進支援センターの位置づけ】

本学では、従来から学内に運動部統括組織として「運動部運営委員会」を委員会として設置し、競技力の向上はもちろんのこと、教育的な側面からも学生に対し健全なスポーツ支援活動を行ってきた。本事業を契機として「運動部運営委員会」を発展的に改組し、スポーツ分野の全学的な統括部局「順天堂スポーツ推進支援センター」（以下「センター」という。）を平成29年度に設置し、スポーツ推進やスポーツ支援等の取組を一体的に推進するための体制を構築した。（図1）従来の運動部運営委員会は「順天堂スポーツ推進センター運営委員会」と名称を変更し、本学が行ってきた運動部学生に対する教育的指導を継承している。

#### 【センターの人員配置】

センターの人員配置は図1の通りで、センター長には、スポーツ健康科学部学部長の吉村雅文教授、副センター長には、学生部部長の廣瀬伸良教授、スポーツ・アドミニストレーターには事業企画・実施の責任者として中村充教授を配置した。また、推進支援を進めるにあたり、主任スタッフとして（企画・マーケティング・コア事業担当）スタッフを配置した。

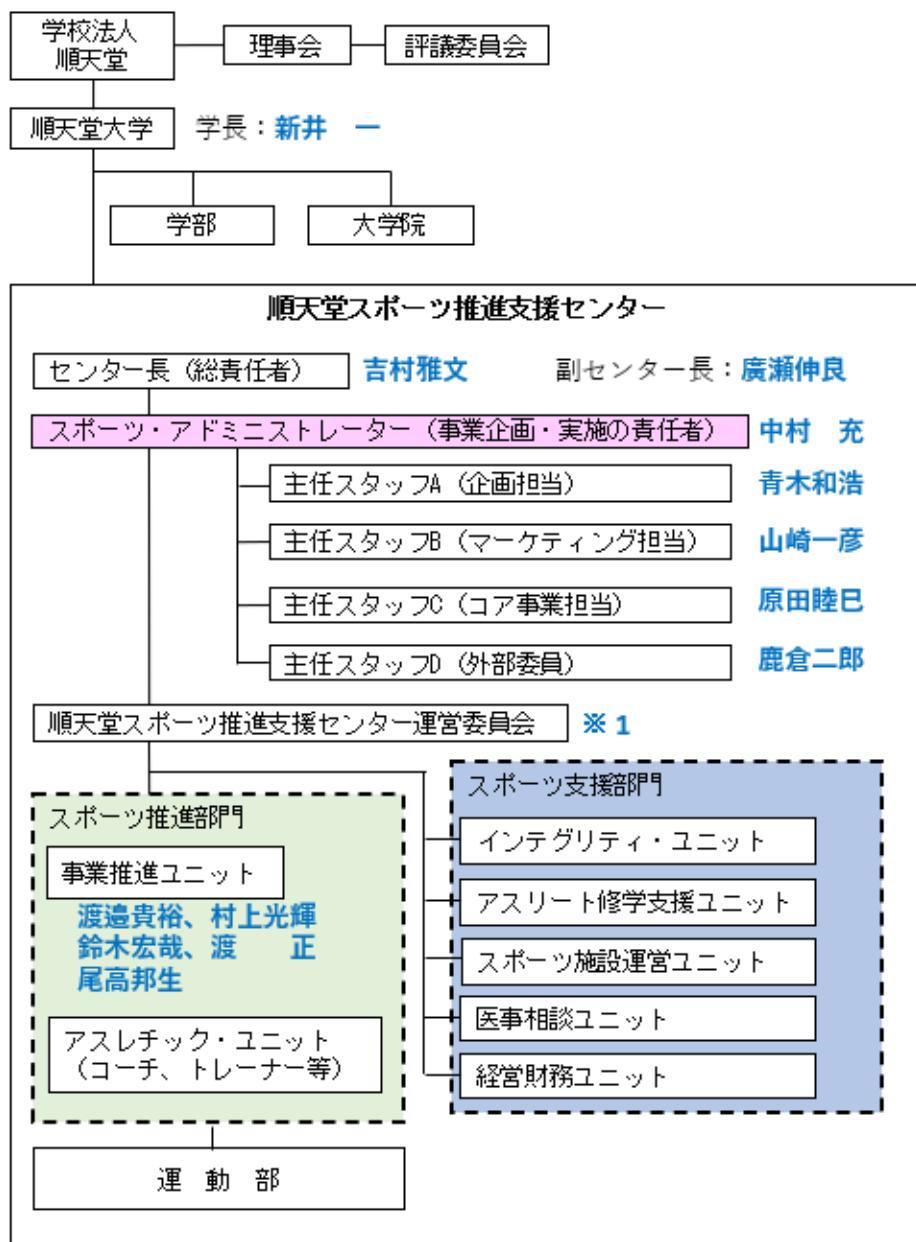
外部委員としてNATABOC公認アスレティックトレーナー(ATC)の資格を持ち、NCAAに精通している鹿倉二郎客員教授を配置した。また、事業推進ユニットには日本ボッチャ協会の村上光輝強化指導部長を配置した。

#### 【センターの活動】

センターの主な活動は以下の通りである。

- 1、運動施設の管理
- 2、リーダーシップトレーニング（コンプライアンス教育）の企画、運営
- 3、入学前教育プログラムの企画、運営
- 4、フォローアップカードの作成、依頼
- 5、運動部指導者会総会の企画、運営
- 6、マネージャー会議の企画、運営
- 7、スポーツ競技に関する広報活動（クラブ活動報告書、ホームページ）
- 8、運動部助成金の配分案作成
- 9、各クラブに関する調査依頼
- 10、スポーツ奨学金に関する検討
- 11、スポーツ競技に秀でている区分に関する入学試験の検討、提案
- 12、規約の制定、改正等に関する検討
- 13、covid-19 対策に関する検討、対応
- 14、その他

## 順天堂スポーツ推進支援センターの組織体制 およびSAの配置状況



**※1 :**廣瀬伸良(柔道)、中村充(剣道)、山崎一彦(陸上)、青木和浩(陸上)、  
 中嶽誠(バスケ)、原田睦巳(体操)、武田剛(水泳)、堀池巧(蹴球)  
 山田泰行(自転車)、荻原朋子(バレー)

## (2)大学スポーツ・アドミニストレーターの配置の状況について

### 【大学スポーツ・アドミニストレーターに雇用した者に求めた資質・能力等】

平成29年度に順天堂スポーツ推進支援センターを設置し、総責任者のセンター長のガバナンスのもと、事業開拓やブランド力向上等のスポーツ分野の取組を総合的にコーディネートする人材として、令和2年度は本学スポーツ健康科学研究所教授で順天堂スポーツ推進支援センター運営委員長の中村充をスポーツ・アドミニストレーターとして配置した。

大学スポーツ・アドミニストレーターに求めた資質・能力等は以下の7点である。

- ①学内の部活動について精通し、支援、管理ができる者
- ②社会的な課題を踏まえ、大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化の企画立案ができる者
- ③学内外の組織との協働によって効果的に事業を展開できる者
- ④収益力向上に向けた取組を企画立案し、資金調達のできる者
- ⑤学生アスリートへの学修支援やキャリア形成支援の企画立案ができる者
- ⑥カリキュラム整備を含めたスポーツ教育のコーディネートができる者
- ⑦スポーツボランティアの育成と普及啓発活動が指揮できる者

### 【大学スポーツ・アドミニストレーターが担っている役割・具体的に行なった業務】

本学のスポーツ・アドミニストレーターが担っている役割は、スポーツ推進支援センター運営委員会を運営し、事業企画・実施の責任者として、スポーツ推進部門とスポーツ支援部門の企画、運営、実施状況を把握し、指揮する役割を担っている。

また、具体的に行なった主な業務としては、以下の通りである。

- ・周辺自治体と連携を強化し、スポーツ施設の地域開放をはじめ、研究成果及び人的資源等を活用して、スポーツ文化の発展、健康増進、介護予防、共生社会の実現等、多様な課題解決に協力してきた事例整理
- ・大学内での順天堂スポーツ推進支援センターの組織体制整備および人的配置
- ・順天堂スポーツ推進支援センターの活動の指揮
- ・学外との連携体制の整備と強化
- ・本学が取り組むべき課題や将来構想を推進する「SAKURA 未来プロジェクト」との関係整備
- ・スポーツ・アドミニストレーターに関する会議やシンポジウムに出席
- ・covid-19禍における各運動施設の施設使用基準の作成並びに各運動施設の使用再開ロードマップの作成

### 3. 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成等

---

#### (1) 近隣自治体コンソーシアム

##### ①千葉県成田市

2020年9月19日に第3回 NARITA スポーツツーリズム（会場：イオンモール成田）が開催され、本学教員2名、事業支援スタッフ2名の計4名で、パラリンピック競技体験のイベントの視察し、成田市シティプロモーション部スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック推進室、イオンモール成田と今後の地域活性化に資する取組について意見交換を行い、今後の取り組みについて連携、協力していくことが確認された。

##### ②千葉県印西市

2020年8月に印西市企画財政部シティプロモーション課オリンピック・パラリンピック推進室との間において、本事業の概要を説明し、趣旨について共有した。今後の実施事業の取組について意見交換を行い、連携、協力していくことが確認された。

##### ③千葉県酒々井町

2020年8月に酒々井町教育委員会生涯学習課との間において、本事業の概要を説明し、趣旨について共有した。今後の実施事業の取組について意見交換を行い、連携、協力していくことが確認された。

#### (2) 地方自治体コンソーシアム

##### ①岩手県遠野市

2020年9月25日に、順天堂大学スポーツ健康科学部と岩手県遠野市の間において、両者が連携・協力して共生社会の形成を目指し、「スポーツを通した共生社会推進に関する連携協定」を締結した。

当日はコロナウイルス感染症の影響により、順天堂大学さくらキャンパスと遠野市役所をオンラインでつなぎ、本学スポーツ健康科学部学部長と遠野市長が以下の内容についての締結書に署名をし、連携協定を結んだ。

また、2020年10月には本事業実施担当者が岩手県遠野市役所を訪問し、今後の両者の連携やパラスポーツを通したまちづくりについて遠野市長と懇談を行った。

## 遠野市と順天堂大学スポーツ健康科学部との 共生社会推進に関する連携協定書

遠野市（以下「市」という。）と順天堂大学スポーツ健康科学部（以下「大学」という。）は、相互の発展に資するため、次のとおり協定を締結する。

### （目的）

第1条 本協定は、市と大学の相互の連携と協力のもと、スポーツを通した共生社会の推進や地域の振興に寄与することを目的とする。

### （連携事項）

第2条 両者は、前条の目的を達成するため、次に掲げる分野について連携協力するものとする。

- (1) 市民の共生社会・パラスポーツの理解推進に関する取組
- (2) 地域特性を活かした継続的な創出・地方活性化に関する取組
- (3) 地域特性を踏まえたパラスポーツ・共生社会推進の担い手の育成への取組
- (4) スポーツを通した共生社会形成に関する調査研究
- (5) その他前条の目的を達成するために必要と認める事項

### （連携調整窓口）

第3条 両者は、前条に掲げる連携事項の円滑な推進を図るため、それぞれに連携調整窓口を設置し、適宜協議するものとする。

### （情報保護）

第4条 本協定に基づき、両者が知り得た情報については、それぞれ秘密を保持しなければならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

### （有効期間）

第5条 本協定は、締結の日から効力を生じるものとし、令和3年3月31日までとする。ただし、期間満了の1ヶ月前までに両者のいずれかから解除の申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、その後も同様とする。

### （その他）

第6条 本協定に定める事項について疑義が生じた場合又はこの協定に定めない事項について必要がある場合は、両者が協議の上、定めるものとする。

この協定の証として本協定書を2通作成し、両者が署名の上、各自その1通を保有する。

## 連携協定書

### 締結式出席者

所 属	役 職	氏 名
遠野市	市長	本田 敏秋
	副市長	飛内 雅之
	市民センター所長	小向 浩人
	市民センター生涯学習スポーツ課長	高橋 隆悦
	市民センターパラリンピック推進室長	朝倉 優香
順天堂大学	スポーツ健康科学部学部長	吉村 雅文
	スポーツ健康科学部学部長補佐	青木 和浩
	さくらキャンパス学生課長	白石 知己
	スポーツ健康科学部先任准教授	渡邊 貴裕
	スポーツ健康科学部先任准教授	鈴木 宏哉
	スポーツ健康科学部准教授	渡 正
	スポーツ健康科学部講師	尾高 邦生



オンラインによる調印

**遠野**

## 障害者スポーツ推進強化 市、順天堂大と連携協定

遠野市は、順天堂大（東京）スポーツ健康科学部（吉村雅文学部長）と共生社会推進に関する連携協定を結んだ。障害者スポーツの普及や人材育成の取り組みを強化する。  
協定は今月締結し、内容は▽スポーツを通じた共生社会形成の調査研究▽共生社会と障害者スポーツの理解推進▽地域特性を生かしたにぎわい創出など5項目。

吉村学部長は「大学の資源と多彩な人材を駆使し、遠野市との連携で好循環を生み出す」と展望し、本田敏秋市長は「共生社会の実現をまちづくりの柱に据える上で、最先端の大学の協力は心強い」と期待する。

同市は県内で唯一、東京五輪・パラリンピックの先导的共生社会ホストタウンに登録され、同大は障害者スポーツを通じた地域活性化を図るスポーツ庁の事業にたびたび採択されている。今後はスポーツ体験会や、オンラインによる人材育成講習などを展開す。

順天堂大の全面協力で6月に行われたボッチャ体験会。遠野中の生徒らが競技の魅力に触れた

2020.9.29(火) 岩手日報

新聞掲載記事(岩手日報)

## 岩手県遠野市とスポーツを通した共生社会推進に関する連携協定を締結しました



オンラインによる締結式の様子（左モニター：本田敏秋 遠野市長／右：吉村雅文 スポーツ健康科学部長）

順天堂大学スポーツ健康科学部と岩手県遠野市は、2020年9月23日に、スポーツを通した共生社会推進に関する連携協定を締結しました。

順天堂大学は、令和2年度スポーツ庁委託事業「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」に採択され、本学のスポーツ資源を活用した地域貢献に取り組んでおります。

また、岩手県遠野市は、ユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーに関して先導的かつ先進的な取組が評価され、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における先導的共生社会ホストタウンとして認定されています。

この度、順天堂大学と遠野市がスポーツを通した共生社会推進に関する連携協定を締結し、両者が連携・協力して共生社会の形成を目指し、パラスポーツを通したまちづくりひとつづくりに取り組んでまいります。

### 「スポーツを通した共生社会推進に関する連携協定」

#### ■協定の目的

遠野市と順天堂大学の相互の連携と協力のもと、スポーツを通した共生社会の推進や地域の振興に寄与することを目的とします。

#### ■相互協力に関する協定の内容について次に掲げる分野について連携協力してまいります。

- (1) 市民の共生社会・パラスポーツの理解推進に関する取組
- (2) 地域特性を活かした賑わいの創出、地方活性化に関する取組
- (3) 地域特性を踏まえたパラスポーツ・共生社会推進の担い手の育成への取組
- (4) スポーツを通した共生社会形成に関する調査研究
- (5) その他前条の目的を達成するために必要と認める事項

## 4. パラスポーツ体験会の実施

---

### (1)印西市 小学校体験会

2020年11月、2021年2月3月に印西市企画財政部シティプロモーション課と共に、市内小学校5校においてボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーを内容としたパラスポーツ体験会を実施した。

9日間、延べ717人の児童に対して、パラリンピックの概要、パラスポーツの特徴、共生社会について講義をしたのちに、実際に練習とゲームを実施した。

各校のPTA広報部による取材や各校のホームページへの掲載などを通じて、地域住民に取組の内容と成果を周知した。

#### 【ボッチャ体験会の概要】

講演後の実技では、ボッチャのルール説明—練習—ゲームといった内容で実施した。

体育館にラインテープで複数コートを作り、実際のコートの大きさで作成してしまうと小学生には広すぎるため、実際より縮小したコートを設置した。工夫した点ではボッチャの「ぶつける」や「はじく」等の特性を生かしたミニゲームを考え、ボールに触れながらルールを学ぶ機会を設けた。

また、ゲームを進めていく中で、どこに投げるのか、どのように投げるのか等についても児童同士で相談しあう場面も見られ、コミュニケーションが活発になる様子も見られた。

事後には、この種目のおもしろさや難しさについても振り返りを行い、種目の特性への気づきを促すとともに、「みんなが楽しめる種目」への視点についても振り返りを行った。

#### 【ゴールボール体験会の概要】

視覚に障害のある人向けに開発されたゴールボールについて、その種目の特性をスライドで説明するとともに、「視覚に障害がある人も楽しめる」ためにはどのような工夫が必要かについても、児童とやりとりを行った。

実技では、ボールを持たないで、聴覚をよりに姿勢を移動することを体験した後、アイシェードを付け、ボールを投げたり、ボールを止めたたりといったパス練習を行った。

その後ミニゲームとして、攻撃側が投げたボールを、守備側が音をよりにガードするといったPK形式のゲームを行った。

体験中は、アイシェードを付けたことによって視覚が遮断され、不安を口にする児童もいたが、事後の振り返りにでは、「目が見えない人の気持ちがわかった」といった視覚障害の理解につながる感想も見られた。

#### 【シッティングバレー体験会の概要】

下肢に障害のある人向けに開発されたシッティングバレーについて、動画等を見ながらその特性やルールについて解説した。

実技では、滞空時間の長い風船を使用し、ペアでのパス練習、円陣パス、3対3のゲームを行った。

コートの大きさやネットの高さを調整し、座位で移動しての捕球やラリーの継続などを意識できるようにした。

事後では、「座位での移動」の難しさと座位でボールを打ち合うことの面白さの感想が聞かれ、身体障害者への理解とバレーボールと比較してのパラスポーツの工夫についての気づきが得られたようであった。

#### 印西市 小学校 パラスポーツ体験会実施一覧

期日	実施校	学年	人数	内容
2020年11月16日	印西市立西の原小学校	4年生	76	ボッチャ
2020年11月17日	印西市立いには野小学校	5年生	76	ボッチャ
2020年11月20日	印西市立いには野小学校	6年生	88	ボッチャ
2021年2月9日	印西市立木戸小学校	6年生	111	ボッチャ
2021年2月17日	印西市立西の原小学校	3年生	83	ボッチャ
2021年2月22日	印西市立木下小学校	4年生	46	ゴールボール
2021年2月26日	印西市立いには野小学校	4年生	77	シッティングバレー
2021年3月2日	印西市立原小学校	5年生	97	ボッチャ
2021年3月5日	印西市立原小学校	5年生	63	ボッチャ



印西市立いには野小学校体験会



印西市立いには野小学校体験会



印西市立いには野小学校体験会



印西市立いには野小学校体験会



印西市立木下小学校体験会



印西市立木下小学校体験会

【家庭数配付】



## 木下小だより「あすなろ」

令和3年

2月25日号

(第12号)

印西市立木下小学校

児童数 274名

### ゴールボール・ボッチャ体験

2月22日(月)順天堂大学の尾高先生と学生の皆さんを講師として、4年生が「ゴールボール体験」をしました。 ゴールボールはパラリンピック種目にもなっており、視覚障害者が中心に行う競技です。

始めに、いろいろな障害者スポーツについての説明がありました。その中で、尾高先生の言葉に「障害者スポーツは『障害者のスポーツ』ではなく、誰でもが、一緒にできるスポーツです。」という言葉がありました。

次に、ボールの止め方を教えてもらいました。アイシェードを付けると全く見えない状態なので、ボールからなる鈴のような音をたよりに体全体で止めます。結構堅くて重いので、力をしっかり入れないと止められません。始め怖がっていた子ども達も、だんだん上手にボールを止めていました。

最後に、PK方式で、投げる人と止める人に分かれて競い合いました。うまく止めたのを見たとき、まわりから大きな歓声が上がりました。難しい競技ですが、楽しく活動できました。

順天堂大学学生の佐野優人選手はゴールボールの日本代表として活躍しています。東京パラリンピックのゴールボール会場は千葉市の幕張メッセです。みんなで応援したいですね。

1年生、くすのき・ひまわり学級ではボッチャ体験をしました。ボッチャもパラリンピック種目になっています。以前、私(校長)が順天堂大学の先生や学生に教えていただいたことがあるので、子ども達には私からルール等教えました。

ボッチャは点数の数え方がカーリングと同じです。ただし、カーリングは中心の的に近づけるものですが、ボッチャは最初に投げる白い「ジャックボール」に近づけるものです。ジャックボールに当てるのを動かすことができるので、最後まで勝敗がわかりません。

1年生でも簡単にでき、大喜びでした。パラリンピック選手になると、技術だけでなく駆け引きもあって、作戦も高度になり、とても奥深い競技です。機会があれば他の学年でも取り組んでみたいと思います。

(校長 増田 賢一)

#### ゴールボール体験



#### ボッチャ体験



印西市立木下小学校 校長だより

## (2)印西市 福祉事業所オンライン体験会

2020年11月に社会福祉法人印旛福祉会「ふれあいサポートセンターいんざい」において、ボッチャを初めて体験する精神障害がある成人利用者の方を対象に、オンラインでボッチャの体験会を行った。

当初は対面での実施を計画していたが、コロナ感染症の影響を受け、感染リスクを減らした方法を検討し、オンラインでの開催となった。

大学とふれあいサポートセンターいんざいをオンラインで繋ぎ、対象者はモニターに表示される進行を受け、体験を行った。ふれあいサポートセンターには最小限の人数が大学から派遣し、体験会の現場の撮影の補助や道具の準備などを行い、進行は全て大学から行った。

体験会の内容は以下に示した動画コンテンツを大学側から配信し、説明資料としたほか、ゲームの様子やボールの位置などをタブレット端末を用いて大学に中継し、大学側から評価やアドバイスをした。工夫した点では、ゲームの結果を大学側で写真として表示して、写真に直接書き込みを行いながら解説したことにより、オンラインだからこそ可能な指導を展開することが出来た。また、タブレット端末やカメラを複数台用意して中継することで、ゲームの様子だけではなく、参加者の反応等も見ながら進行をすることができた。参加者は非常に楽しんでいる様子が見受けられ、「またやりたい」等の意思表示が見られた。

### ふれあいサポートセンター印西での体験会実施一覧

日付	時間	方法	参加者	人数	内容
2020年11月4日	10:30-11:30	オンライン	精神障害がある成人利用者の方	20名程度	ボッチャ
2020年11月25日	10:30-11:30	オンライン	精神障害がある成人利用者の方	20名程度	ボッチャ

### 動画コンテンツの内容

#### 動画①：準備動画

- ・コートの設定（ラインテープを引き、コートづくり）
- ・ボールの準備
- ・チーム分け

#### 動画②：練習動画

- ・紙を用いた練習
- ・フラフープを用いた練習
- ・ミニフープを用いた練習
- ・ジャックボールを用いた練習

#### 動画③：ゲーム動画

- ・ルールの説明
- ・得点の数え方
- ・投球順序の説明

## 社福) 印旛福祉会とのオンライン形式によるボッチャ体験会 実施案

1. 期日 令和2年11月4日(水)

2. 時間 10:30~11:30

3. 会場 社福) 印旛福祉会 ふれあいサポートセンターいんざい

〒270-1326 印西市木下804番地1

TEL: 0476-42-1118

4. 内容 ボッチャ

5. 参加者 利用者: 6名~10名程度 (主に精神障害者)

順大訪問スタッフ: (教員) 尾高、(大学院生)

順大学内スタッフ: (教員) 渡邊、(大学院生)

※今回は、オンラインの接続の準備等を実施するために、少人数のスタッフが現地に訪問する。会の進行や利用者へのアドバイスは学内から行い、また、利用者と学生の双方向でのやりとりも意識しながら、遠隔での実施を想定した取り組みとしたい。

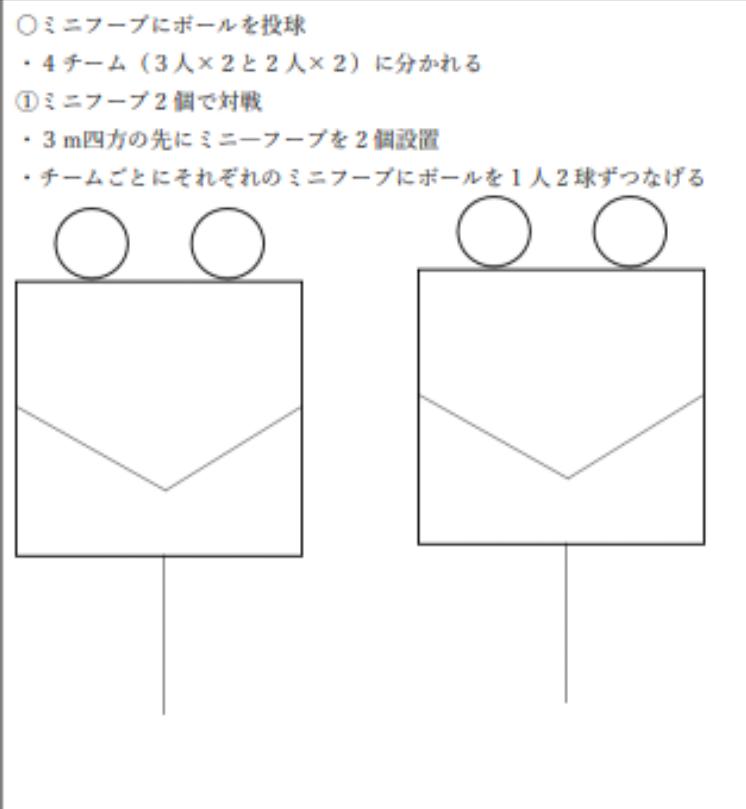
## 6. 日程

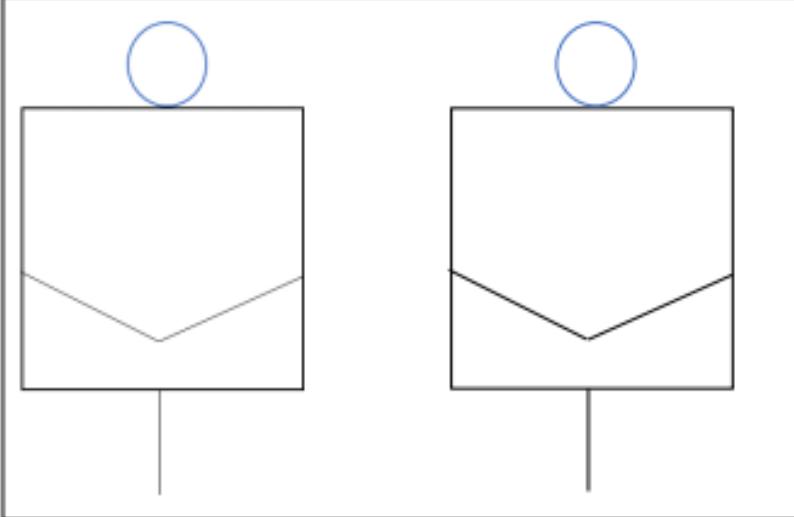
	現地	学内
8:30	大学出発	
9:30	会場・接続準備	接続準備
10:30-11:30	ボッチャ体験会	
	片づけ	片づけ
12:30	大学帰着	

## 7. 実施方法

- ①順大とふれサボをオンライン(zoom)で接続
- ②ルール動画を順大から提供
- ③練習 練習方法を動画で提供 ⇒ 練習の展開、アドバイスを順大から行う。
- ④ゲーム ふれさぼ内で2チームわけをしてゲーム ⇒ 進行を学内から行う。

## 8. 活動の展開

時刻	ふれサボ側	順大学内
	準備 ・コート、物品準備 ・機器準備、接続確認	準備 ・機器準備、接続確認
10:30	導入 ①会の趣旨と自己紹介 ②ボッチャとは オンライン ③ルール オンライン →「コートの作り方」を見てコート作成 3m四方のコートを2か所設置 ④練習方法の理解	・「ボッチャとは」オンラインで流す ・「ボッチャのルール」 ・練習ビデオ
10:45	練習  ○ミニフープにボールを投球 ・4チーム（3人×2と2人×2）に分かれる ①ミニフープ2個で対戦 ・3m四方の先にミニフープを2個設置 ・チームごとにそれぞれのミニフープにボールを1人2球ずつつなげる 	

	<p>②ミニフープ1個で対戦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3m四方の先にミニフープを1個設置</li> <li>・コートごとにそれぞれのミニフープにボールを1人2球ずつねげる</li> </ul>	
		
11:00	<p>ゲーム</p> <p>○練習と同じチームで試合（3人対3人と2人対2人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間によって2~6エンド実施</li> </ul>	
11:25	まとめ	

#### 9. 準備物

現地：ふれサボ

➤ 順次から

- ・ポッチャセット②、ラインテープ（白）、ミニフープ
- ・P C、wifi、接続コード、ipad、web カメラ

➤ ふれサボ

- ・モニター

順大学内

- ・モニター、P C、コンテンツ動画、得点版

#### 10. その他

- ・コロナ感染症対策について確認する



社会福祉法人印旛福祉会リモート体験会

### (3)遠野市立鰐沢小学校 パラスポーツ体験会

2020年10月29日に岩手県遠野市市民体育館において、遠野市立鰐沢小学校の児童9名を対象に、パラスポーツに関する講演、ボッチャ・シッティングバレーの体験会を実施した。

児童は事前にパラスポーツについての調べ学習を行なっており、そのうえでのパラリンピックやパラスポーツに関する質疑応答が活発になされた。

また、実技では、今回初めて知った知識やルールを上手に活用して体験を楽しんでいた。ボッチャでは、車いすに座っての投球や「ランプ」という傾斜のついた道具を使ってボールを転がすということも体験し、様々な障害のある人でも体験できるスポーツ種目であるということを理解していた。

シッティングバレーでは、座位での移動や風船を用いてのパスやゲームなど、動作に制約がある中での球技の経験を通して、パラスポーツへの理解を深めていた。



鰐沢小学校 講演の様子

**鱒沢小学校 パラスポーツ体験会 活動内容**

8:00	準備開始 ・機器接続、コート準備、道具確認	武道ホール ・BC：正式コート1、ミニコート3
9:00	児童到着	武道ホールへ。 以下すべての活動を武道ホールで実施
9:10 (15分間)	開会 座学(1)【知識編】 ・ボッチャ、シッティングバレーの基礎&発展的知識（ルール、得点方法、コート、道具など） ・座学だが体験・活動を組み合わせる	・プロジェクター、スクリーン ・PC ・BC,SVの各用具 ・ワークシート
9:25-10:05 (40分間)	実技(1)【ボッチャ】 ① 練習 ・2人1組で1人はアシスタント役になってボールを投げる ・3コート用意し、コート毎で投げ方を変えて色々な投げ方を体験してみる ② 試合 ・2人1組のペア戦 2エンド ・5人対5人のチーム戦	遠野市準備物 ・ボッチャボール ・ランプ ・車いす(椅子でも可) ・メジャー ・ラインテープ 順大準備物 ・ミニフープ
10:05-10:15 (10分間)	休憩	換気 水分補給 トイレ
10:15-10:55 (40分間)	実技(2)【シッティングバレー】 ① (5分) シッティングバレーの概要 本時の目標の確認 ② (10分)足と手での移動練習 ③ (15分)ボール（風船）を使った動き 二人組でキャッチボール(5分) 二人組で打ち合い(5分) 円陣バレー(5分) ④ (10分)ネットを使ったゲーム	※適宜施設管理サービス職員の方にも入っていただく コートの端と端を往復 実際にネットを挟んで相手とボールを繋ぐ
11:00-11:15 (15分間)	座学(2)【クイズ編】 ・パラリンピック、パラ種目、BC、SVに関する○×クイズ	・○×カード（順大）
11:30	児童出発	



鰐沢小学校 ボッチャ体験の様子



鰐沢小学校 ランプ使用の様子

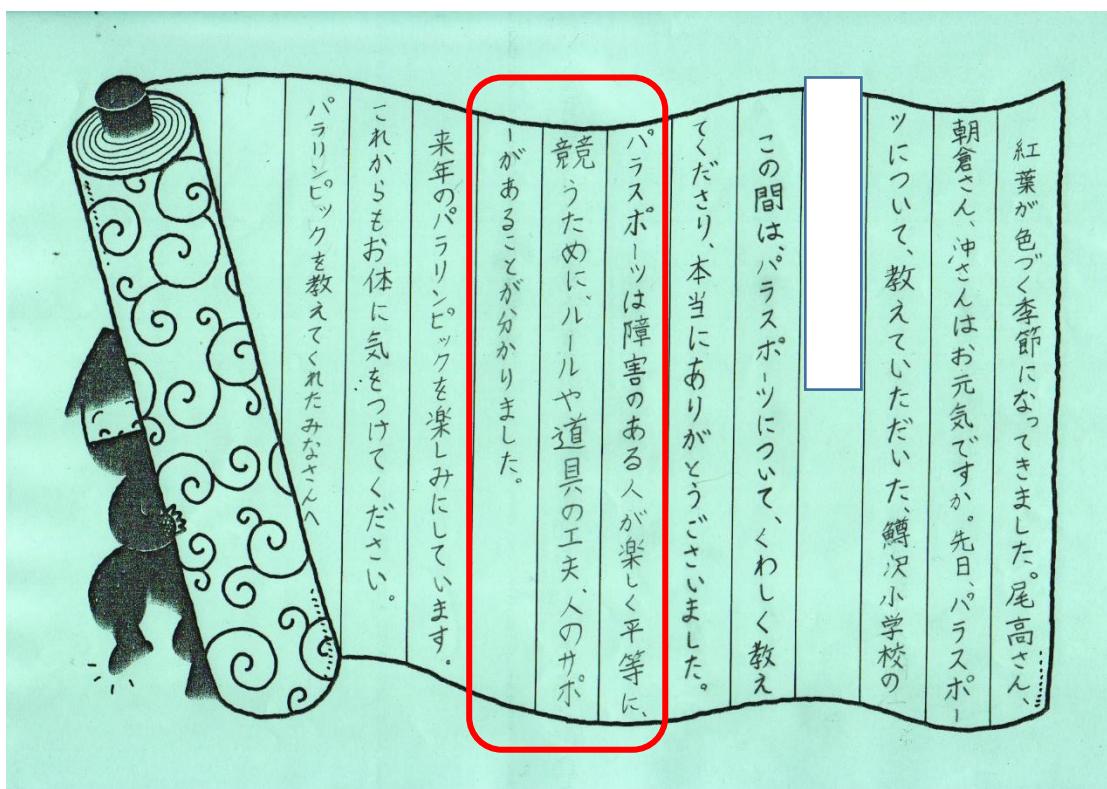
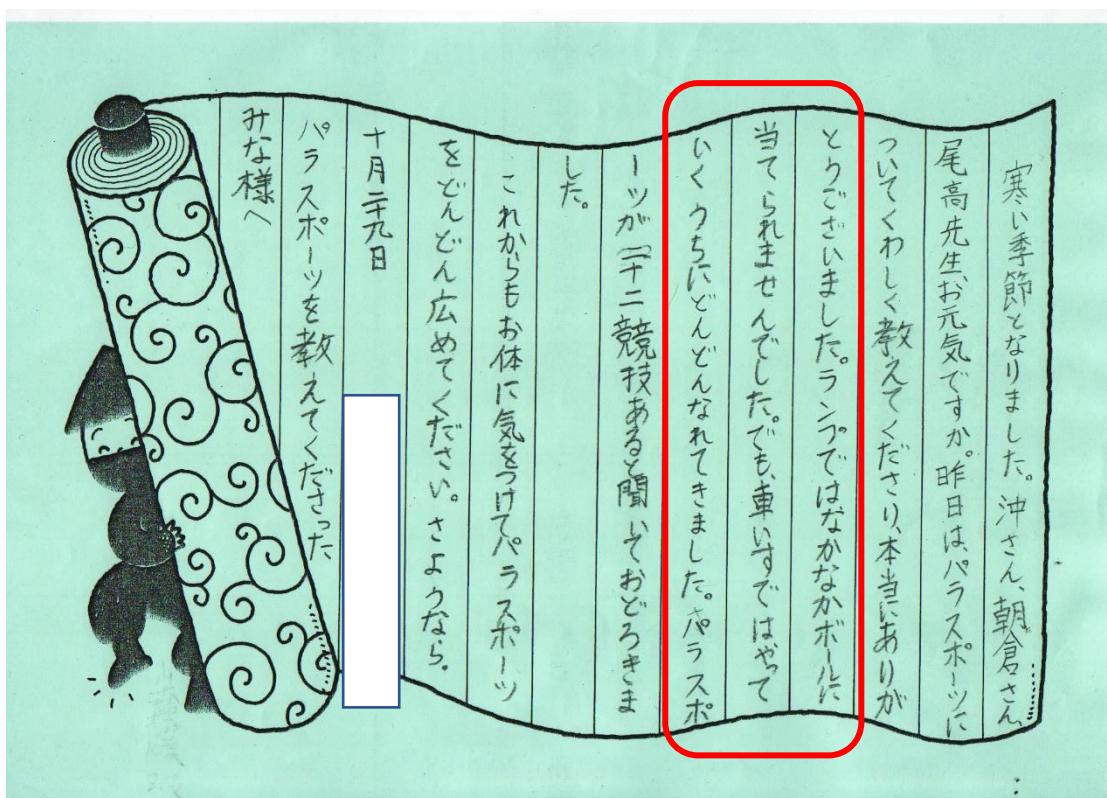


鰐沢小学校 シッティングバレーボールの様子



鰐沢小学校 シッティングバレーボールの様子

鰐沢小学校 児童の感想(児童名は伏せてあります)



はだ寒い季節になりました。みなさんは元気ですか。

先日パラスボーツについて教えていたたいた。鰐沢小学校の五年一組佐木里乃亞です。

この間は、パラスボーツについてくわしく教えてくださいありがとうございました。スクリーンを使ったり、寒さいにやってみたりしたので、とても分かりやすかったですね。ボッチャはふつうにころがす他にもねたり、ランプを使ったりすること分かりました。

これでうちも、お体に気をつけお過ごしください。さよなら。

十月三十日

パラスボーツを教えてくれたみなさまへ

二つ葉がきれいな時期となりました。

パラスボーツについて教えていたたいた。

鰐沢小学校

です。

先日は、パラスボーツについて、いろいろな事を教えていただき、ありがとうございました。ボッチャでは、ランプを初めて使ってみてランプを使うと、ますぐボールが行くので、ようがいのある人たちも、使いやすいと思いました。

シッティングバレーでは、おしりをずっとつけるのは、むずかしかったけど、楽しくたいけれどする事ができました。

これからもパラスボーツについて研究をしていくぞー。お元気で。

教えてくれたみなさまへ

#### (4)酒々井町 パラスポーツ体験会

千葉県酒々井町においても酒々井町教育委員会生涯学習課と連携し、町民の障害者スポーツへの興味・関心を高め、障害者スポーツの持つスポーツ・文化・教育的価値を学び・実感することを目的として、パラスポーツ体験会を実施する予定であった。

当初、2020年8月開催を予定していたが、コロナ感染症の影響により延期し、2021年1月に実施予定であったが、緊急事態宣言の発出の影響により町と協議のうえ、中止とした。

##### 実施概要

- 期日:令和3年1月5日(火)、1月6日(水)
- 時間:10:00~12:00
- 会場:1/5 酒々井小学校体育館 1/6 大室台小学校体育館
- 参加者:各校の希望者最大30名 小4~小6
- 内容:
  - ①講義
  - ②体験 ボッチャ
  - ③体験 シッティングバレーボール

酒々井町・順天堂大学連携事業

参加費は  
**無料**です

# 障害者スポーツ を学ぼう！

順天堂大学の協力で



パラリンピックスポーツを体験しながら学ぶことができる講座を開催します。  
学校では体験できないスポーツをやってみよう！

	日 時	対 象	会 場
1	1月5日(火) 10:00~12:00	酒々井小学校の4年生~6年生	酒々井小学校 体育館
2	1月6日(水) 10:00~12:00	大室台小学校の4年生~6年生	大室台小学校 体育館

【定員】各回30名 (申込先着順)

【● 加費】無料

【申し込み方法】電話のみ

生涯学習課 スポーツ振興班までお申し込み。

申込期限：12月18日(金)  
電話番号：043(496)5334

【問い合わせ先】酒々井町教育委員会 生涯学習課 スポーツ振興班

☎043 (496) 5334



ブラインドサッカー

酒々井町 体験会募集チラシ

## 5. まちなかパラフェスの開催

---

### (1)「まちなかパラフェス」の概要と目的

各自治体において、支援してきたチームと一般市民を加えたボッチャの対抗戦を開催し、成果の発表の場とするとともに、人の集まる「まちなか」で開催することにより、多くの市民の目に触れる機会となり、経済の活性化や地域活性化に資することもねらいとする。

あわせて、ゴールボールやシッティングバレーなどの他のパラスポーツ体験会を開催したり、車いすマラソンや車いすバスケットボール用の競技用車いすを用意し乗車体験をするほか、一般の車いすを利用し、まちなかのバリアフリー状況を体験するなど、共生社会理解促進の場とする。

### (2)岩手県遠野市「共生社会フォーラム in とおの」

2021年1月31日に「共生社会フォーラム in とおの」において、岩手県遠野市における「まちなかパラフェス」として、共生社会に関する講演に加え、一般市民向けのボッチャやアンプティサッカー、シッティングバレーなどを実施する予定であった。2020年10月の体験会に参加した小学生にも参加を呼び掛け、成果発表の場として考えていたが、コロナウイルス感染症にかかる緊急事態宣言の発出により、イベントの内容が変更になり、パラスポーツ体験の一部が中止となった。また、講演についても人数を制限し、本学からリモートによる実施となった。

実施内容:講演

演題:「パラリンピックを契機に考える共生社会」

講師:順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授 渡 正



健幸ポイント  
Wellness Point 行きましたポイント対象事業です

# 共生社会 フォーラム in とおの

Symbiotic society forum in TONO

「音楽」「スポーツ」「多文化理解」など、  
年齢、性別、国籍、障害のある・ないにかかわらず  
どなたでも楽しめるイベントです。

2021年1月31日(日) 9:30-15:30 会場 遠野市民センター／あえりあ遠野

## ステージイベント

### 表彰・発表・講演 入場無料

大ホール▶9:30~(開場 9:00)

- ・開会セレモニー（ブラジル国歌合唱ほか）
- ・パラリンピック聖火命名者表彰、共生社会実践事業者認定
- ・高校生によるホストタウン活動発表
- ・講演「パラリンピックを契機に考える共生社会」  
順天堂大学スポーツ健康科学部  
スポーツマネジメント学科准教授 渡 正 氏

### ふるさと遠野音楽祭

入場料：前売り1,000円、当日1,500円、学生無料

大ホール▶13:30~(開場 13:00)

東日本大震災をきっかけに立ち上がった学生音楽団体「Mother Earth Project」と遠野市内の中学生が、主体的に自由な創作で「共生社会」をテーマに公演。



### スペシャルゲスト 庄野 真代 氏

歌手。大阪出身。1978年「飛んでイスタンブル」が大ヒット。ニューミュージックを代表するシンガーとして活躍。今も穎せぬ軽やかな歌声と音楽性が幅広い世代から好評。



## 体験・お楽しみコーナー

入場無料

各種コーナーを巡って  
景品をゲットしよう！

### 世界の味比べ& 多文化交流

講義室▶10:00 ~ 15:00



### パラスポーツ体験

体育館▶9:30 ~ 15:30

車いすバスケットボール、アンプティー  
サッカー、シッティングバレー、ボッチャ、  
卓球バレー  
※車いすバスケットボールは事前予約が  
必要です。



※その他、各種展示あります。

### いわてShare!スポ ミュージアム

ホワイエ▶10:00 ~ 15:00



お問い合わせ 遠野市パラリンピック推進室 TEL 0198-62-4413

共生社会フォーラム 告知チラシ



## 今日の内容

1. パラリンピックの紹介
2. 障害とはなにか (The Social Model of Disabilityの重要性)
3. パラスポーツの紹介 (社会モデルとしてのルール変更とクラス分け)
4. 共生社会とパラスポーツの可能性



Copyright © 2020 JUNTENDO University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピックとは？

国際パラリンピック委員会のWEBページより

- ・2016年リオデジャネイロ・パラリンピック
  - ・競技種目数：22競技
  - ・参加選手数：4328人
  - ・参加国・地域：159
  - ・観客動員：約210万人、41億人の視聴者数
- ・2018年平昌パラリンピック
  - ・競技種目数：6競技
  - ・参加選手数：567人
  - ・参加国・地域：49
  - ・観客動員：約34万人、20億人の視聴者数



Copyright © 2020 JUNTENDO University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピックのはじまり

ルードヴィッヒ・グットマン卿 (Sir Ludwig Guttmann)

- ・第二次世界大戦後のイギリスでは、終戦後における傷痍軍人の社会復帰が大きな問題となることが予想
- ・グットマンはストーク・マンデビル病院内の脊髄損傷病棟の責任者として着任
- ・脊髄損傷者を救急時から受け入れ、急性期安置からリハビリテーション訓練に至るまでの一貫した治療訓練システムを形成
- ・当時死亡率の高かった脊髄損傷者に対する治療や訓練やレクリエーションとして、積極的にスポーツを取り入れた。
- ・日本のパラリンピックの父、中村裕は1960年ごろにストーク・マンデビル病院へ留学



### パラリンピックのはじまり

ルードヴィッヒ・グットマン卿 (Sir Ludwig Guttmann)

- ・ストーク・マンデビル競技大会
  - ・1948年、ロンドンオリンピックの開会式と同日（次の日とも）、病院内16名が参加し、アーチェリーの競技会が開催された。現在のパラリンピックの原型の一つ
  - ・1952年からは、このストーク・マンデビル競技大会にオランダなどの外国からも選手が参加。競技会は国際大会へ
  - ・1960年のローマ、1964年の東京はオリンピック施設を使い開催
  - ・1988年のソルヴ大会から正式開催



### 東京パラリンピック1964



Copyright © 2020 JUNTENDO University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピックの理念

スポーツを通してよりインクルーシブな社会をつくること

- ・4つの価値
  - ・Courage (勇気)
    - ・パラアスリートは、彼らのパフォーマンスを通して、世界までその身体をテストした時に何が達成できるかを世界に示している。
  - ・Determination (決意)
    - ・パラアスリートは、可能性の境界を定期的に再定義するよう、スポーツパフォーマンスを生み出すメンタル・タフネスと身体的な能力、優れた競争性を組み合わせユニークな力を持っている。
  - ・Inspiration (インスピレーション)
    - ・ロールモデルとして、パラアスリートは、彼らの能力を最大化する。それは、人びとを活動的につくり、スポーツに参加するように鼓舞したり、刺激をあたえている
  - ・Equality (平等・公平)
    - ・スポーツを通じて、パラアスリートは、ダイバーシティを称賛し、違いが力であることを示す。またインクルージョンのパライオニアとして、彼らは、スタイルオライブに挑戦し、態度を楽しむ、社会的パラリーゼーションの最も人への差別を打破していく。



シンボルマーク  
スリーアギトス

・質問

- ・あなたは車椅子に乗っています。今、階段の前にいて、上の階に行きたいのに、のぼることが出来ずに困っています。どうしてのぼれないのでしょうか？
- ・考え方1：あなたは、車椅子に乗っているせいで、上の階に行けない
- ・考え方2：あなたは、この建物に階段以外がないから、上の階に行けない
- ・バリアを取り除くことをバリアフリーという（物理的な環境だけではなく、私達の偏見なども含む）



Copyright © 2020 JUNTENDO University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.



Copyright © 2020 JUNTENDO University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

## 共生社会フォーラム in とおのにおける講演の内容

### 障害とは?

**障害の社会モデル (The Social Model of Disability)**

- ・社会が生み出す障害=Disability (ディスアビリティ) : めんどくさいこと
- ・(イギリスの) 英語で障害者は: disabled people
- ・disabled = Dis + able + ed = 「できなくさせられている人」
- ・社会的なバリアや人々の偏見・差別意識によって
- ・誰でも「できなくさせられる」=障害者になる可能性がある
- ・個人の障害=Impairment (インペアメント) ; ままでないこと
- ・アメリカ英語では、person with disability (人という共通性を重視する)

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピック (パラスポーツ) の特徴

**社会モデルとスポーツ種目**

- ・パラリンピックだけの種目
- ・オリンピックには該当競技がないパラリンピック特有の競技
  - ・ボッチャ、ゴルフボールなど
- ・オリンピック種目を改造したもの
  - ・シッティングバレーボール、5人制フットボール、車いすバスケットボール
- ・スポーツと社会モデル
  - ・どちらにしても、これまでのスポーツ (社会) は健常者中心
  - ・ルールを変えたり、新しく創造したりして社会を変えたもの

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピック (パラスポーツ) の特徴

**社会モデルとスポーツ種目**

- ・パラリンピックだけの種目
- ・オリンピックには該当競技がないパラリンピック特有の競技
  - ・ボッチャ、ゴルフボールなど
- ・オリンピック種目を改造したもの
  - ・シッティングバレーボール、5人制フットボール、車いすバスケットボール
- ・スポーツと社会モデル
  - ・どちらにしても、これまでのスポーツ (社会) は健常者中心
  - ・ルールを変えたり、新しく創造したりして社会を変えたもの

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピック (パラスポーツ) の特徴

**合理的配慮とスポーツ**

- ・合理的配慮
  - ・人それぞれに生じる困難や障害を取り除くための個別に行われる調整や変更・支援のこと
- ・スポーツでの適用例
  - ・ゴールボールでは、音が出るボールやラインに凸凹を入れたりして視覚情報以外を使ったり、環境を静音に保って音を聞きやすくすること

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピック (パラスポーツ) の特徴

**クラス分け**

- ・障害者スポーツにおいて最も特徴的な仕組み
  - ・様々な人々をスポーツへと誘い、人々が公正な条件で競技を実施するための仕組み
- ・競技結果に障害の種別や程度が反映しないようにすること
- ・格闘技での体重別での競技実施の理念と同様

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### 共生社会とは

- ・私たち1人ひとりが多様で、違いがあることを前提にして、どのような人も適切な配慮のもと社会やスポーツに参加できること
- ・誰もが同じように社会参加できること=身体への不配慮=めんどくさいことを減らす
- ・合理的配慮=個々のニーズに基づいた配慮=ままでないことを減らす

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### 共生社会に向けて

**量化 (障害の多様化)**

The diagram illustrates the shift from individualized disabilities to universalized disabilities. It shows three stages: 1. Individualized disabilities (e.g., amputee, blind person) leading to '分化' (separation). 2. Universalized disabilities (e.g., sit-down volleyball, wheelchair basketball) leading to '統合' (integration). 3. Universalized disabilities becoming '多様化' (diversification), leading to '統合' (integration).

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### パラリンピックと共生社会

**量の拡大と質の転換**

**量** の拡大
 

- ・関心を持つ人、参加する人を増やすこと

**質** の転換
 

- ・考え方を変えること
- ・障害をネガティブに捉える必要はない

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

### 共生社会マスター

- ・共生社会マスター認証
- ・地域社会でパラスポーツ体験会やイベントを運営し、スポーツを通じた共生社会の実現に寄与する力を養成し、地域における共生社会やパラスポーツ推進の担い手を育成することを目指す
- ・「障害者」とその身体という差異に出会える大きな機会を提供するものになります。
- ・本コンテンツは2月後半以降にアップロード予定です。

Inclusive Society Master  
JUNTENDOK University

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

## 共生社会フォーラム in とおのにおける講演の内容

### (3)千葉県成田市 まちなかパラフェス

2021年2月20日にイオンモール成田において、千葉県成田市における「まちなかパラフェス」を開催した。

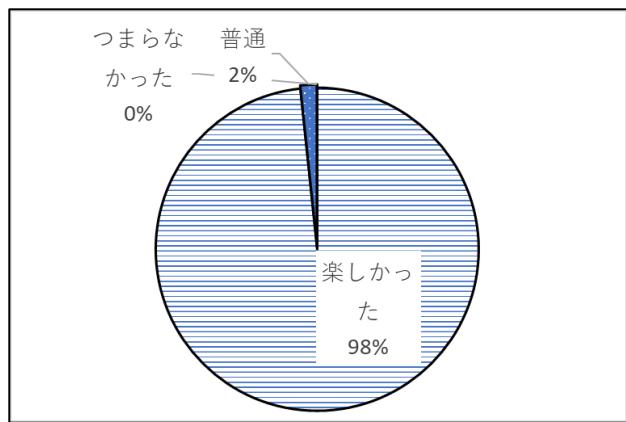
イオンモール成田を訪れたお客様を対象に、ボッチャの体験会を実施した。日本ボッチャ協会より提供された競技説明動画や競技の魅力発信動画を大型モニターで放映し、来場者にボッチャ競技の魅力を発信した。さらに成田市作成のパラリンピックホストタウン関係の成田市の取り組みを紹介したパネルも掲出し、市民への情報発信の機会とした。

ボッチャ体験には、幼児から高齢者まで幅広い年代の方が参加し、ボッチャのルール説明の後、ミニゲームを行った。来場者同士でのゲームを行うなどしながら70名ほどの来場者が体験をした。

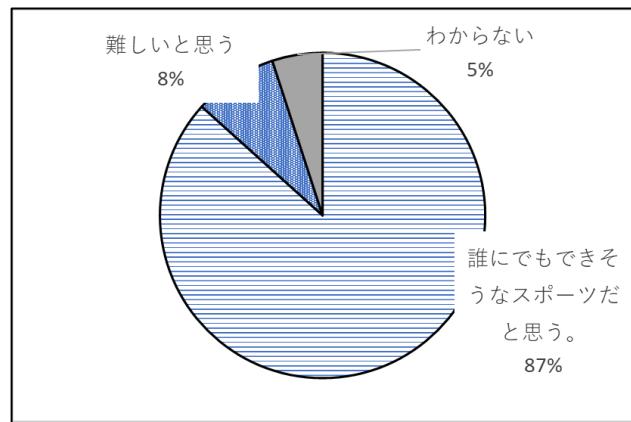
会場には、車いすバスケットボールに使用される車いすやゴールボールのボールとアイシェード等も展示し、参加者が触れたり試乗したりする様子も見られ、多様なパラスポーツへの関心を高めることにつながったと考える。

体験後のアンケートでは、下記のように、ほとんどの参加者から「楽しかった」との回答を得ることができた。また、ボッチャ競技について、「(高齢者や障害者など)誰でもできそうなスポーツだと思う」と回答した人87%に上った。

ボッチャについて体験前に質問すると、「見たことはあるが、やったことがない」と答える参加者が多くみられた。事後のアンケートからも、体験を通して、この競技が多様な人にとって取組みやすいという理解につながったと考えられることから、このような気軽に体験できる機会を設定することで、パラスポーツへの理解や共生社会の理解に訴求することができるのではないかと考える。



ボッチャ体験の感想



ボッチャの多様性への可能性について

2021/02/09

## スポーツ庁事業 成田市イベント 実施概要

### 1. イベントのタイトル

もっと知りたいパラスポーツ！ ～やってみようボッチャ～

### 2. イベントの目的

令和2年度スポーツ庁委託事業「パラスポーツを通したまちづくり・ひとづくり支援」の一環として、市民の皆様にパラリンピック正式種目であるボッチャを広く体験していただき、障害者スポーツへの関心を高め、共生社会への理解を深めていただくことを目的とします。

来場者 70名程度を目標とする。

### 3. 実施概要

- ① 期日：2021年2月20日（土）
- ② 時間：11：00～13：30
- ③ 会場：イオンモール成田 住所：成田市ウイング土屋 24/1F：和み広場
- ④ 主催：順天堂大学
- ⑤ 協力：成田市 イオンモール成田 日本ボッチャ協会
- ⑥

### 4. 実施内容と方法

- ① 内容：ボッチャの体験イベント
- ② 対象者：イオンモールにお越しのお客様
- ③ 方法：ボッチャコートを2面設定し、練習用コートで簡単なレクチャー投球体験、試合用コートでゲームを行う。（来場者の人数に応じて調整）  
また、車いすやランプ（投球用傾斜台）も準備し、障害のある人が用いる用具を利用して投球（ゲーム）をする機会も設ける。

### 5. 広報・展示

- ・ボッチャに関する動画の放映（日本ボッチャ協会作成）⇒大型モニターでの放映
- ・順大パラスポーツに関する動画の放映⇒大型モニターでの放映
- ・ボッチャルールに関する簡単な掲示物（パネル）の掲出
- ・成田市所有のパラリンピックホストタウン等に関するパネルの掲出（予定）
- ・順大動画に合わせて、ゴールボールのボール、アイシェード等の展示

### 6. 来場者のニーズ調査

- ・体験終了後に、ボッチャの感想や共生社会の意識に関する調査をシール貼付式の簡易な方法で実施し、把握する



# もっと知りたい パラスポーツ

## やってみようボッチャ

- 開催日: **2月20日(土)**
- 時間: **11:00~13:30**
- 会場: **イオンモール成田**  
**1F 和み広場**

申し込み不要  
何時からでも参加できます  
参加無料

主催: 順天堂大学パラスポーツユニット  
協力: 成田市 イオンモール成田 日本ボッチャ協会

イオンモール成田 イベント告知チラシ



会場風景



ボッチャ体験の様子



ボッチャ体験の様子



ボッチャ体験の様子

## 6. 共生社会マスター認定への取組み

### (1) 目的と実施方法

地域における共生社会やパラスポーツ推進のため、パラスポーツ体験会やイベントを運営し、スポーツを通した共生社会の実現に寄与する担い手を育成することを目的として、「共生社会マスター」資格を設定し、本事業の各取組みに積極的に参加した人を表彰・認定する事業を実施した。

当初の計画では「体験会の参加、共生社会理解講座（オンライン含む）への出席、チーム支援への協力、まちなかパラフェスへの参加を通して、①多様性と共生社会のあり方、②ユニバーサルデザインとバリアフリー、③障害の理解、④各種競技の理解、⑤スポーツやパラリンピックの価値、⑥スポーツやバリアフリーのまちづくり、についての理解を深め、スタンプラリー形式として認定する」としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、対面での講座開催やスタンプラリー形式で、カリキュラム習得を目指す方式は不可能と判断し、本事業のうち、講座の受講部分を原則オンラインで実施し、課題の提出をもって認定することとした。

共生社会マスター認定までのフローを次のように設定した。

- ①共生社会マスター コア科目の視聴
- ②共生社会マスター アドバンス科目（6科目）の視聴
- ③それぞれの科目についての課題の提出（オンライン）、
- ④課題の提出と内容の確認
- ⑤認定

認定者に対しては、独自に作成したピンバッジと認定証を授与することとした。

U SPORTS

News Schedule Para sports Program Pick Up Sports School About us Contact 認定制度

共生社会マスター認定  
共生社会マスターになろう！

HOME > 共生社会マスター認定

共生社会マスター認定概要

地域社会でパラスポーツ体験会やイベントを運営し、  
スポーツを通した共生社会の実現に寄与する力を養成し、  
地域における共生社会やパラスポーツ推進の担い手を育成することを目指します。

共生社会マスターの認定のためには、共生社会の概念や障害理解、  
パラスポーツの種目の理解などの基礎的知識（コア科目）のほか、  
スポーツマネジメントの方法、インクルーシブなスポーツの指導法などの  
発展的知識（アドバンス科目）について、オンライン講義（映像教材配信）によって受講します。  
無料で誰でも受講でき、提出された課題を評価し認定します。

主な受講対象

- パラスポーツのボランティアに関わりたい方
- パラスポーツや共生社会の学びに興味のある方
- スポーツを通じた地域活性化に興味がある方
- 地域社会で活動する方
- 自治体・民間企業職員
- 教育関係者
- 児童・生徒・学生

なお、講義内容は中学生程度でも  
理解できることを目指して作成されています。

認定までのフロー

履修には、各科目の動画視聴と課題の提出が必要です。

● 動画視聴(1動画)

● 動画視聴(6動画)

課題の提出

共生社会マスター認定

順天堂スポーツ推進支援センター事業推進ユニットより認定証が届きます。

お問い合わせはこちら

## (2) 内容

共生社会マスター認定のための各テーマを「共生社会の理解」「障害の理解」「障害者スポーツの理解」「競技の理解」「イベントマネジメント」「指導方法」の6領域に設定した。このテーマの設定については、パラリンピック教育をめぐる諸先行研究の検討と、事業担当者内でのディスカッションをもとに妥当と思われる内容として決定した。

受講科目については、受講者に最初に学んでほしい内容を集めたコア科目とその後の発展的内容を含むアドバンス科目に分類した。コア科目では「インクルーシブ社会」「障害のモデル」「パラリンピック」「クラス分け」という内容を含む内容とした。

アドバンス科目についてはそれぞれのテーマについてコア科目の内容を踏まえいくつかのサブテーマを設定し、より深い学習を行えるようスライド（動画）を作成した。ただし、イベントマネジメント・指導方法に対応するコア科目は設定していない。

本事業については、社会的状況によって積極的な運営ができず、本年度の共生社会マスターの認定を行えなかつたが、認定のためのフローは作成されているため、来年度以降は順天堂大学のホームページや公開講座などで活用し、地域の共生社会の実現に向けた貢献を進めていく予定である。

テーマ	コア科目	アドバンス科目		
共生社会の理解	インクルーシブ社会とは	バリアフリー・UDとは	法・政策	アクセシビリティ
障害の理解	障害のモデル	身体障害	精神障害	知的・発達障害
障害者スポーツの理解	パラリンピックの価値と理念	パラリンピックの歴史	その他の障害別大会	日本の障がい者スポーツ
競技の理解	クラス分け	義肢装具の理解	パラ種目	全スポ種目
イベントマネジメント		スポーツイベントの基本構造	スポーツイベントプランニング	スポーツイベントの意義
指導方法		教え方	障害者との関わり方	STEPモデル



## 障害者スポーツを通した 共生社会の理解に向けて

順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ推進支援ユニット

**パラリンピックとは**

1948年にイギリスのストークマンデビル病院で行われた、スポーツ大会が源流の一つ。  
1960年・1964年には、オリンピック開催都市での開催  
1988年のソル大会から正式開催  
オリンピックと同様に夏冬大会がある。

**参加障害種別**  
肢体不自由、視覚障害、知的障害  
聽覚障害者や精神障害者、多くの知的障害者の参加はない。

**2020東京パラリンピックの開催**  
世界で初めて2回目の開催

第1回～第14回パラリンピック開催実績と参加選手数（人）					
回数	開催年	開催地	参加国	参加選手数	参考
第1回	1956年	ローマ	イタリア	21万回	30万（27万）±5%
第2回	1960年	ローマ	イタリア	25万回	30万（27万）±5%
第3回	1964年	東京	日本	30万回	30万（27万）±5%
第4回	1968年	モントリオール	カナダ	28万回	18万（5万）±13%
第5回	1972年	ハイデルバーグ	西ドイツ	42万回	38万（5万）±12%
第6回	1976年	トロント	カナダ	40万回	38万（11万）±26%
第7回	1980年	アムステルダム	オランダ	42万回	38万（15万）±20%
第8回	1984年	セントルイス	アメリカ	45万回	35万（22万）±27% 障害競技種目追加
第9回	1988年	ソウル	韓国	60万回	35万（20万）±70%
第10回	1992年	バルセロナ	スペイン	82万回	35万（10万）±22% 2回連続開催
第11回	1996年	アトランタ	アメリカ	76万回	35万（10万）±100%
第12回	2000年	シドニー	オーストラリア	122万回	38万（20万）±162%
第13回	2004年	アテネ	ギリシャ	130万回	38万（20万）±118%
第14回	2008年	北京	中国	146万回	41万（24万）±180%
第15回	2012年	ロンドン	イギリス	164万回	42万（27万）±182%
第16回	2016年	リオデジャネイロ	ブラジル	159万回	40万（20万）±187%

Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

**パラリンピックとは**

国際パラリンピック委員会のWEBページより  
2016年リオデジャネイロ・パラリンピック  
競技種目数：22競技  
参加選手数：4328人（男性2657、女性1671）  
参加国・地域：159  
観客動員：約210万人、41億人の視聴者数

2018年平昌パラリンピック  
競技種目数：8競技  
参加選手数：567人  
参加国・地域：49  
観客動員：約34万人、20億人の視聴者数



Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

**日本の障害者の概況**



(厚生労働省平成28年生活のしづらさなどに関する調査結果の概要より)

**障害とは**

障害ってなんだろう？

質問：あなたは車椅子に乗っています。今、階段の前にいて、上の階に行きたいのに、のぼることが出来ずに困っています。どうしてのぼれないのでしょうか？

考え方1：あなたは、車椅子に乗っているせいで、上の階に行けない  
考え方2：あなたは、この建物に階段以外がないから、上の階に行けない

バリアを取り除くことをバリアフリーという  
物理的な環境だけでなく、私達の偏見なども含みます。



Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

**障害者とは**

英語では  
(イギリスの) 英語で障害者は: disabled people

**disabled** : Dis + able + ed  
= 「できなくさせられている人」

社会的なバリアや人々の偏見・差別意識によって  
誰でも「できなくさせられる」 = 障害者になる可能性がある  
例：「ガラスの天井」



Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

**クラス分けの方法**

**機能別クラス分け**  
障害の種別よりも各競技に関連する身体機能や運動機能の発揮状態によってクラスを分けること

**持ち点制**  
選手のクラスごとに持ち点を与えて出場している選手の合計点に制限を加える方法  
車いすバスケットボールやウィルチェアラグビーなどでも用いられる  
車いすバスケットボールでは1.0~4.5で合計14.0以下

**パーセンテージ制**  
実際に滑ったタイムにクラスごとに設定された係数をかけたタイムで順位を決定

**競技における合理的配慮の例**

**合理的配慮**  
人それぞれに生じる困難や障害を取り除くための個別に行われる調整や変更・支援のこと

**スポーツでの適用例**  
ゴールボールでは、音が出るボールやラインに凸凹を入れたりして視覚情報以外を使ったり、環境を静音に保って音を聞きやすくすること



Copyright © 2020 JUNTENDOK University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

## 科目内容の一例

### インクルーシブ社会の理念

私たち1人ひとりが多様で、違いがあることを前提にして、どのような人も適切な配慮のもと社会やスポーツに参加できること

誰もが同じように社会参加できること = 身体への不配慮  
合理的配慮 = 個々のニーズに基づいた配慮

### インクルーシブ社会の具体例

多くの社会的場面では、未だインクルーシブな社会になっていないことが多い  
たゞ、スポーツでは可能になっている場面もある=スポーツの可能性

障害をネガティブに（損傷として）捉える必要はない、パラスポーツに求められる制限は参加の条件と考えられる

- ゴルフボール：視覚を用いないボールゲーム
- ボッチャ：投げ方を問わず（蹴っても良い）的にボールを近づける
- テニス：車椅子と立位のプレイヤーがミックスダブルスを組むことも
- 健常者のサッカー：手を使わないボールゲーム

Copyright © 2020 JUNTENDŌ University, Faculty of Health and Sports Science. All Rights Reserved.

## 科目内容の一例

**Inclusive Society Master**  
JUNTENDŌ Certified

**認定証書**

殿

あなたは順天堂スポーツ推進支援センターが主催する共生社会にむけたパラスポーツ教育講座を終了しましたので、ここに共生社会マスターであることを認定いたします

令和 年 月 日

順天堂スポーツ推進支援センター

認定証とピンバッジ

## 7. 本事業の総括

---

本事業においては、本学のスポーツ資源を活かして、関係自治体との連携しながら、パラスポーツを通して共生社会への理解を深め、まち・ひとづくりに貢献することを目的とした。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動も含めたイベント開催の自粛・制限やソーシャルディスタンスに配慮しながらの社会活動が求められた。

本事業においても、当初計画していた事業内容やその方法について、大幅な変更を余儀なくされ、計画通りに遂行できたとは言い難い状況であった。

しかし、そのような状況下においても、関係自治体の協力の下、コンソーシアムを形成し、感染症予防に十分に配慮しながら、可能な範囲での体験会等を実施してきた。体験をした参加者は幼児から高齢者まで幅広い世代であり、感想等からそれぞれの年齢に応じたパラスポーツの理解を深めていったと考える。

また本事業では、感染症対策として、実際に対面で行うこと難しいケースもあったことから、実施場所をオンラインでつなぎ、リモートによる体験会や講演などの新たな方法に取り組んだ。ICT環境の整備などの課題も見られるが、今後の活動の新たな可能性ととらえて、コンテンツ等の開発にあたりたい。

各自治体からも、取り組みへの高い評価を得るとともに、次年度以降も連携して取り組んでいきたいとの依頼もあった。今年度十分に実施できなかった内容も踏まえ、さらなる共生社会の理解をめざし、地域活性化に資する今後の取組みとしたい。

本事業実施について、ご指導、ご理解、ご協力をいただきましたスポーツ庁、各自治体、関係機関の皆さんに厚く御礼申し上げます。